

# 解体マニュアル

SSH00012



トラック式高所作業車架装部

株式会社 アイチ コーポレーション

## 目 次

1. はじめに	.....	1
2. 車両各部の名称	.....	1
3. 注意事項	.....	2
4. 解体手順	.....	2
5. 終わりに	.....	3
6. お問い合わせ窓口	.....	3

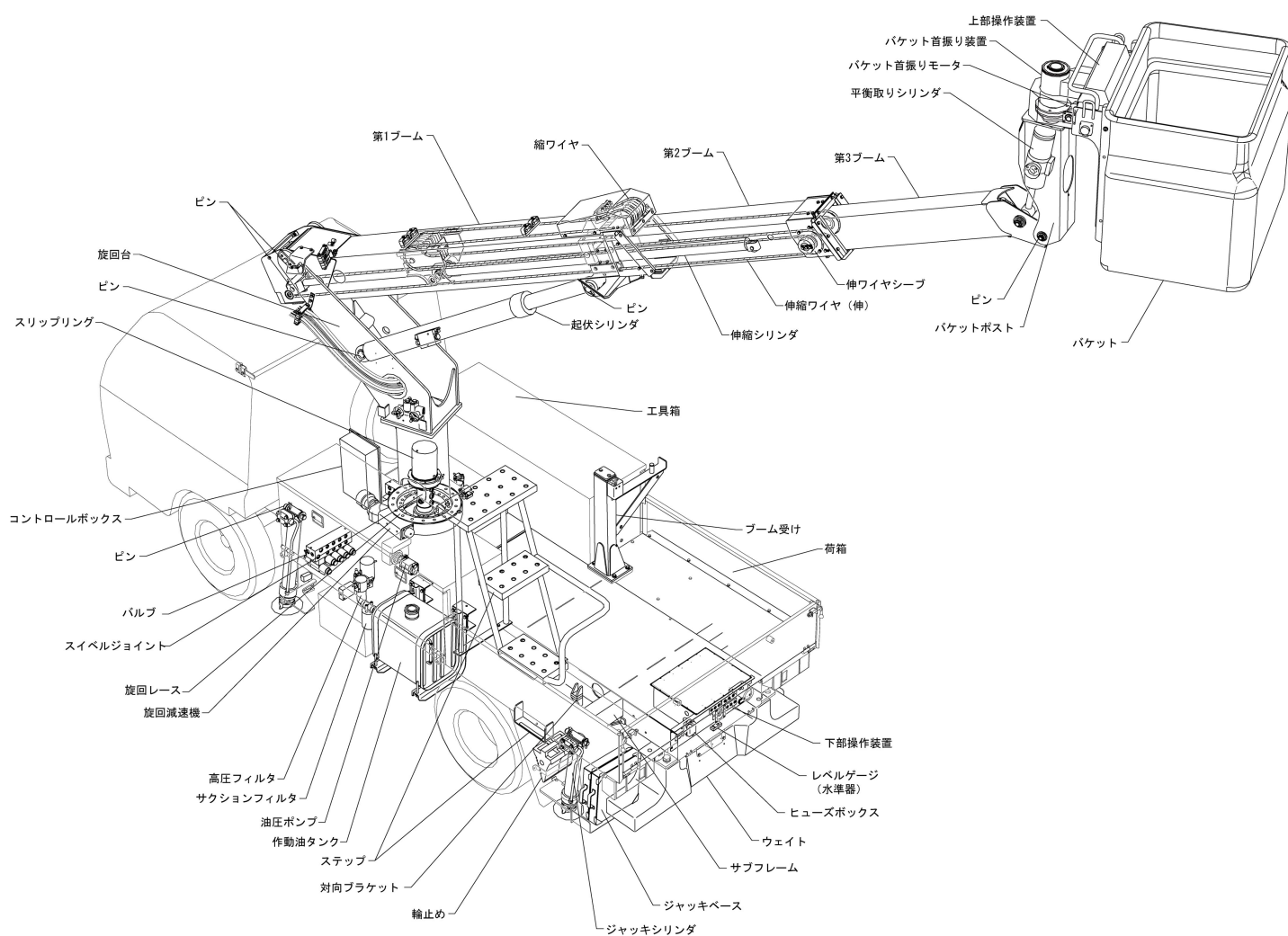
## 1. はじめに

本解体マニュアルは解体した架装物が、資源として効率的に有効活用が行えるよう情報提供するものです。記載内容はトラック式高所作業車の一般的な解体例を示し、掲載されている形状と実物は異なる場合があります。

この解体マニュアルは解体業者が安全に解体するための参考例です。解体作業に当たっては、(一社)日本自動車車体工業会のホームページ(URL : <https://www.jabia.or.jp/>)に掲載されている「解体マニュアル(車体工業会共通版)」を参考に、解体場所、設備及び用具等に注意し、安全作業及び環境保全に留意し、関係法令を遵守して解体を行って下さい。

尚、本解体マニュアルにて解体作業を実施された際に、お客様または第三者に損害が生じた場合、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承下さい。

## 2. 車両各部の名称



### 3. 注意事項

#### 3-1. 作業上の注意

- 1) 作業を安全に行うため、定められた作業服、作業帽、安全靴を着用し、作業内容に応じて保護メガネ、耳栓、防塵マスク等の保護具を着用して下さい。
- 2) 高所作業については、墜落制止用器具、足場の確保等転落防止処置を講じて下さい。
- 3) 燃料系および作動油等の除去・回収に当たっては消防法を順守し、引火・爆発が発生しない環境下及び方法で行って下さい。
- 4) 油脂・液剤系の回収に当たっては、地下浸透や施設外流出が発生しない環境下及び方法で行って下さい。
- 5) タンク等の解体時は事前に有害物質等の除去・洗浄が完全に行われていることを確認し、安全を確保した上で作業して下さい。
- 6) 解体する際は、ジャッキを軽く地面に接地させ、ブームを格納した状態にしてから作業を行って下さい。
- 7) 油圧機器の油圧配管・ホースを取り外す際は、作動油が垂れないように受け皿で受けて下さい。  
作動油量は車両の大きさによっても異なりますが、作業床の最大高さを目安にした場合の油量は以下の通りです。各抜き取りはそれぞれにドレンプラグがありますので緩めて行って下さい。

最大高さ	作動油タンク容量	全体油量
8m～10mクラス	約30～40ℓ	約40～50ℓ
12mクラス	約55ℓ	約75ℓ
15mクラス	約55ℓ	約90ℓ
20mクラス	約100ℓ	約180ℓ
30mクラス	約100ℓ	約175ℓ

- 8) 油圧部品・配管等を外す場合、場所によっては高圧の作動油が閉じ込んでいる場合がありますので、取外しの際には十分注意して作業を行って下さい。
- 9) 各部の部品を外す際は、必ずクレーン等で外す部品を支え、安全に留意して行って下さい。  
なお、ブーム・フレーム等の大型部材については事前に重量等をお問い合わせ下さい。

#### 3-2. 事前選別対象物

主に解体業者が行う事前選別とは使用済み架装物等に含まれる有害物質及び埋め立てが禁止されている部品・材料等、並びにそれらを含む部品を破碎処理する前工程で選別し、適正に保管、処分する作業を言います。事前選別対象物は車体工業会ホームページを参照して下さい。

#### 3-3. 環境負荷物質の取り扱い

環境負荷物質を含む部品等については、確実に分離し適正な処理に努めて下さい。  
環境負荷物質使用部品事例は車体工業会ホームページを参照して下さい。

### 4. 解体手順

- 1) 工具箱、ステップ及び荷箱等の主要な外装部品を取り外して下さい。
- 2) 作動油タンクのドレンプラグから作動油を抜き取ります。  
注. 作動油は可燃物です。火気に注意してください。
- 3) ブーム先端からバケット側に接続されている、電気配線及び油圧ホースを切り離します。
- 4) ブームとバケットポスト部を接続しているピンを抜いて、バケットを外して下さい。
- 5) 旋回台後面からブーム側に接続されている、電気配線及び油圧ホースを切り離します。

- 6) 第1ブーム後端のブームと旋回台を固定しているピン及び起伏シリンダのブーム側のピンを抜いて、ブームを取り外します。
- 7) 伸縮シリンダの第1ブーム側の取り付けピンを抜きます。
- 8) 第1ブーム先端部側面・下面・上面のスライダを取り外します。
- 9) 第2ブームと第3ブームを同時に第1ブームから取り外します。
- 10) 伸縮シリンダの第2ブーム側の取り付けピンを抜き伸縮シリンダをブーム内から抜きます。
- 11) ブーム先端部側面・下面・上面のスライダを取り外し第2ブームより第3ブームを抜きブームを切り離します。
- 12) 旋回台から起伏シリンダを取り外します。
- 13) スイベルジョイント(旋回体送油装置)に接続されている油圧ホース及び配線を全て取り外します。
- 14) 旋回台を取り付けているボルトをすべて外し、旋回台を取り外します。
- 15) ジャッキシリンダを取り付けているピンを抜いて、ジャッキシリンダを外します。
- 16) サブフレーム周りの油圧機器に接続してある油圧ホースを外した後、作動油タンク・フィルタ・バルブ及び油圧ポンプを取り外します。
- 17) サブフレーム周りの配線を取り外した後、各種バルブ、下部操作装置等の電気部品を取り外します。
- 18) 架装物とシャシを締結している対向ブラケットのボルトを取り外し、サブフレームを降ろします。  
この際、シャシ側に取り付けられている油圧ポンプも外してください。  
注. ポンプはドライブシャフトを介して取り付けられているものもあります。
- 19) 以上で架装物の大まかな解体は終了です。  
解体した油圧部品内部に残留している油脂類を全て抜き、適正な処理を行ってください。

## 5. 終わりに

本解体マニュアルでは10mクラスの高所作業車を基本に、解体手順の概要について記載してあります。詳細についてお知りになりたい場合は、車両の製造プレートに記載されています、製品型式(架装型式)及び製造番号をご確認の上、お問い合わせ窓口にお問い合わせ下さい。

## 6. お問い合わせ窓口

(株)アイチコーポレーション

ライフサイクルサポート部 企画統括推進課

TEL : 048-781-3715

<参考資料>

トラック式高所作業車の主要使用材料は、下記のとおりです。

解体の際には金属類、樹脂、ゴム及び配線等に分別処理してください。

FRPの解体後処理については、「商用車架装物リサイクル・適正処理に関する協力事業者制度参加事業者一覧」  
((一社)日本自動車車体工業会ホームページに掲載)を参照し、適正に処理して下さい。

トラック式高所作業車主要使用材料

No.	主要名称	部 品	材料1	材料2	材料3	材料4	備考
1	ブーム	第1ブーム	鉄				
		第2ブーム	鉄				
		第3ブーム	鉄	又はFRP	又はアルミ		注1
		第4ブーム	鉄				
		ブーム伸縮シリンダ	鉄	樹脂	ゴム		
		伸縮ワイヤロープ	鉄				
		捻回ケーブル	樹脂	配線	銅合金(端子)		
		ワイヤシープ	鉄	樹脂			注2
		ケーブルベア	樹脂				機種による
		スライダ	樹脂				
		摺動ローラ	ゴム	鉄			機種による
2	アーム	アーム	鉄				機種による
		リンク	鉄				機種による
		アームシリンダ	鉄	樹脂	ゴム	銅合金	機種による
		リンクシリンダ	鉄	樹脂	ゴム	銅合金	機種による
3	バケット (バスケット) 装置	バケット(バスケット) ポスト	鉄	銅合金			
		バケット(バスケット) ブラケット	鉄				
		バケット(バスケット)	鉄	又はFRP	又はアルミ		
		平衡取りシリンダ	鉄	樹脂	ゴム	銅合金	
		首振りモータ	鉄	配線	樹脂		
		操作装置	鉄	樹脂(基板)	樹脂(筐体)	配線	
		バルブ	鉄	樹脂	ゴム		
4	ウィンチ装置	ウィンチモータ	鉄	樹脂	ゴム		機種による
		ウィンチドラム	鉄	樹脂			機種による
		ウィンチワイヤロープ	樹脂				機種による
		ウィンチフック	鉄				機種による
		サブブーム	FRP				機種による
5	旋回台	本体	鉄				
		起伏シリンダ	鉄	樹脂	ゴム	銅合金	
		バルブ	鉄	樹脂	ゴム		
		旋回ベアリング	鉄	樹脂	ゴム		
		スィベルジョイント	鉄	ゴム			

No.	主要名称	部 品	材料1	材料2	材料3	材料4	備考
6	サブフレーム	本体	鉄				
7	アウトリガ	本体	鉄				
		張出シリンダ	鉄	樹脂	ゴム		機種による
		ジャッキシリンダ	鉄	樹脂	ゴム		
		スライダ	樹脂				機種による
8	ブーム (バスケット) 受け	本体	鉄				
		スライダ	樹脂				
		ガススプリング	鉄				機種による
9	その他油圧系	油圧ポンプ	鉄	アルミ	樹脂	ゴム	
		旋回減速機	鉄	銅合金	樹脂	ゴム	注3
		旋回モータ	鉄	アルミ	樹脂	ゴム	
		油圧ホース	鉄	布入りゴム	ワイヤ入りゴム	又は樹脂	
		ホース継ぎ手	鉄	ゴム			
		油圧配管	鉄				
		配管継ぎ手	鉄	ゴム			
		作動油タンク	鉄	ゴム			
		作動油タンク固定バンド	鉄	ゴム			
		油圧フィルタ	鉄	アルミ	紙	ゴム	
		作動油	油				
10	その他電気系	コントロールボックス	鉄	樹脂(基板)	ゴム	又は樹脂 (筐体)	
		操作装置	鉄	樹脂(基板)	ゴム	又は樹脂 (筐体)	
		各リミットスイッチ	樹脂	アルミ	配線		
		スリップリング	鉄	樹脂	配線		
		ハーネスASSY	配線	樹脂	銅合金(端子)		
11	艀装部品	工具箱	鉄	ゴム	又はアルミ		
		サイドガード	鉄	又はアルミ			
		ステップ	鉄	又はアルミ			
		リアバンパ	鉄				
		荷台	鉄				
		輪止め	廃プラ	又はゴム	又は木		
		ジャッキベース	鉄	木	又は廃プラ	又はゴム	
		カバー	鉄	又は樹脂	又はアルミ	又はFRP	
		水準器	樹脂	ガラス			
12	バッテリーユニット	電動モータ	鉄	配線	樹脂		機種による
		吸音材	ゴム				機種による
13	エンジンユニット	エンジン	鉄	アルミ	樹脂	ゴム	機種による
		ラジエータ	アルミ	銅合金	樹脂	鉄	機種による
		マフラー	鉄				機種による
		吸音材	ゴム				機種による

No.	主要名称	部 品	材料1	材料2	材料3	材料4	備考
14	オプション	作業灯	鉄	ガラス	樹脂	配線	
		警告灯	鉄	ガラス	樹脂	配線	
		バックモニタ	鉄	ガラス	樹脂	配線	注4
		100Vコンセント	樹脂	鉄	配線		
		アースリール	鉄	配線	樹脂		機種による
		アース棒	鉄				機種による

注1. 鉄にFRPコーティングしているものもあります。

注2. シーブ本体が樹脂製のものもあります。

注3. 減速機の油は減速機本体のドレンプラグを外して抜いてください。

注4. バックモニタのディスプレイは、シャシの運手席内に取り付けられています。

注5. バッテリーは、リサイクル・廃棄システムが確立されているため記載なし。



	22. 05. 31	内容の見直し
改訂歴	改訂日	備 考

トラック式高所作業車架装部解体マニュアル  
SSH00012  
不許複製  
編集・発行 株式会社 **アイチ** コーポレーション  
埼玉県上尾市大字領家字山下1152番地の10